

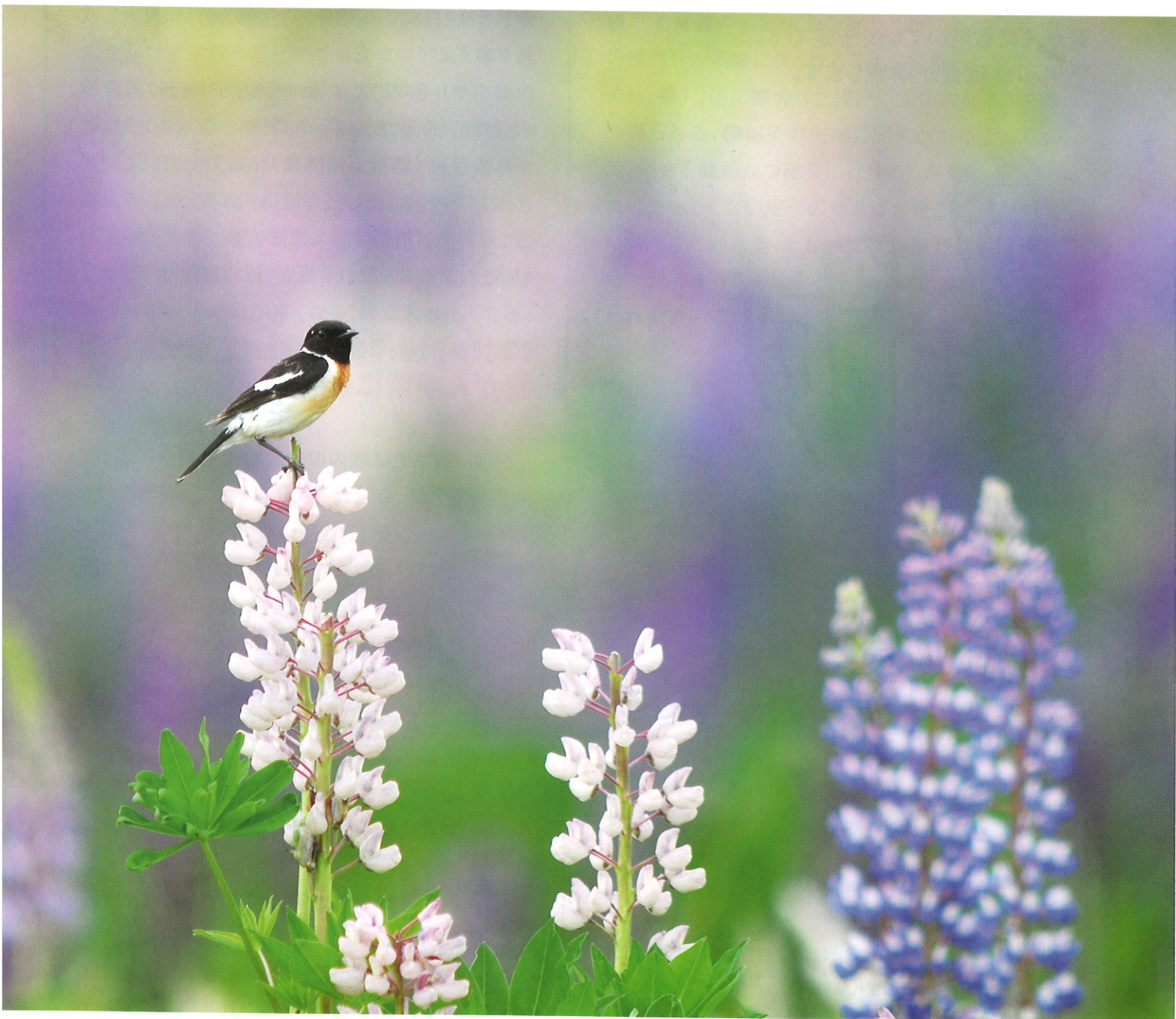
## ■特集 ロボットを用いた腎がんの手術

平川和志 恵佑会札幌病院院長

## ■ピープル 高橋宏明 恵佑会第2病院院長

## ■Q&A 札幌病院と第2病院の違い

## ■クローズ・アップ 院内保育所



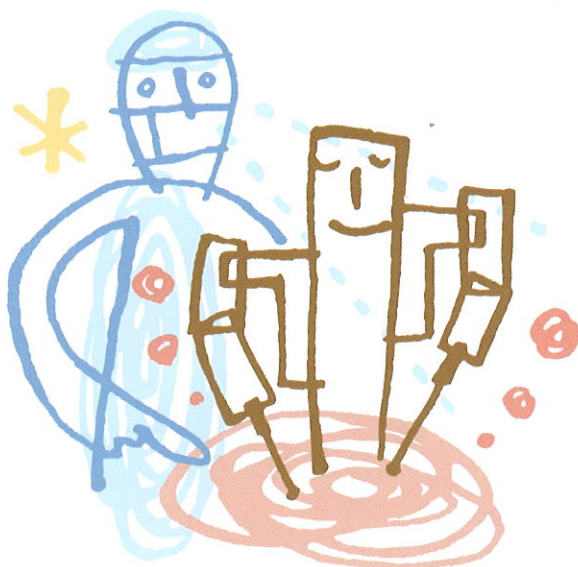


# ロボットを用いた腎がんの手術

## 平川和志

恵佑会札幌病院院長

恵佑会札幌病院では手術用のロボットを導入しています。これまで前立腺がんの手術に使用し良好な成績をおさめてきました。今後は使用範囲を広げ腎がんにも用いていく予定です。平川和志院長が解説します。



ひらかわ かずし

1984年、北海道大学医学部卒業。北海道大学医学部附属病院、国立札幌病院などの勤務を経て、97年より恵佑会札幌病院泌尿器科部長として勤務。2010年に院長に就任。泌尿器科指導医・専門医。

## 前立腺がんの手術で良好な成績

当院では2012年3月から手術用のロボット「ダ・ヴィンチ S (daVinci S)」を導入し、前立腺がんに対してこのロボットを用いた前立腺の摘出手術（腹腔鏡下前立腺全摘除術）を開始しました。2015年4月までに339例の手術を行い、良好な成績をおさめています。

ロボットを用いた手術は、泌尿器科では前立腺のほかにも、腎がんの手術（腎部分切除術）や膀胱がんの手術（膀胱全摘除術）に有効とされています。どちらも今のところ保険適用になっていませんが、海外では有用であることが広く認められており、これまでに多数の手術が行われています。

## ロボット操作の経験と技術の習熟で腎がん手術にも期待

今回、当院では院内の倫理審査委員会によって手術の妥当性、有効性を慎重に検討し、腎がんに対して「ダ・ヴィンチ S」を用いた切除手術（腹腔鏡下腎部分切除術）を開始することになりました。

当院の泌尿器科には、前立腺がんの手術におけるロボット操作の豊富な経験と技術の習熟があり、これを基に腎がんに対しても良好な結果が期待できると考えています。

## 腎がん手術の安全性とリスク

これまで腎がんに対する標準的な手術としては、腎臓をすべて摘出する手術（腎全摘除術）が行われていました。しかし、がんを完全に治すという意味では満足できる成績が得られる場合が多いものの、術後、長期にわたっての腎臓の機能が保持で